

# 最も簡単な例

数値の読みこみ

les > 1\_simplest



名前

更新日時



.ipynb\_checkpoints

2021/05/05 16:03



database

2021/05/05 16:04



~\$readme.pptx

2021/05/05 16:06



code.ipynb

2021/05/05 16:05



readme.pptx

2020/07/17 9:32

このフォルダに  
データを入れる

# 説明

- chart.graphml
  - 実験法に関するファイル
- chart.xlsx
  - 実験記録などを保存するファイル
- 両者のファイル名は同じになるようにすること (“X.graphml” – “X.xlsx” と対応させる)

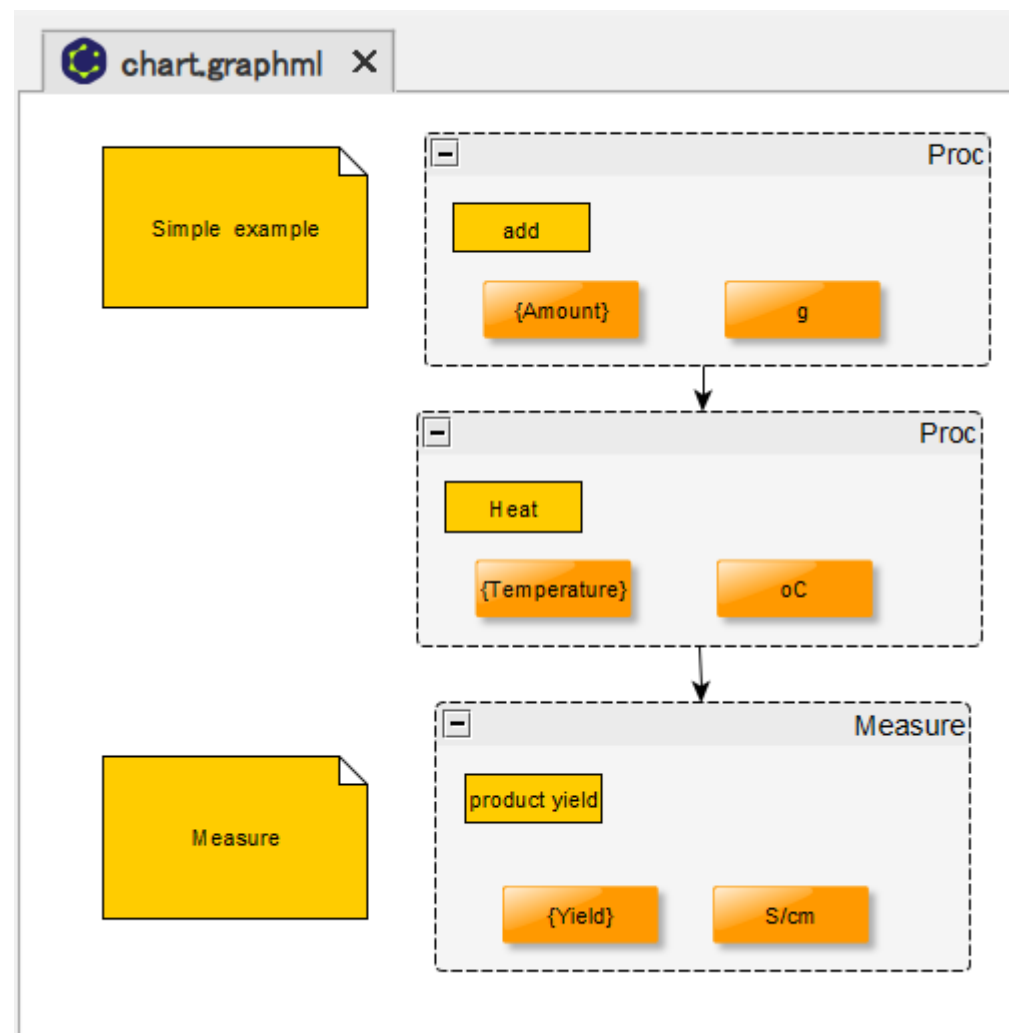
mples > 1\_simplest > database



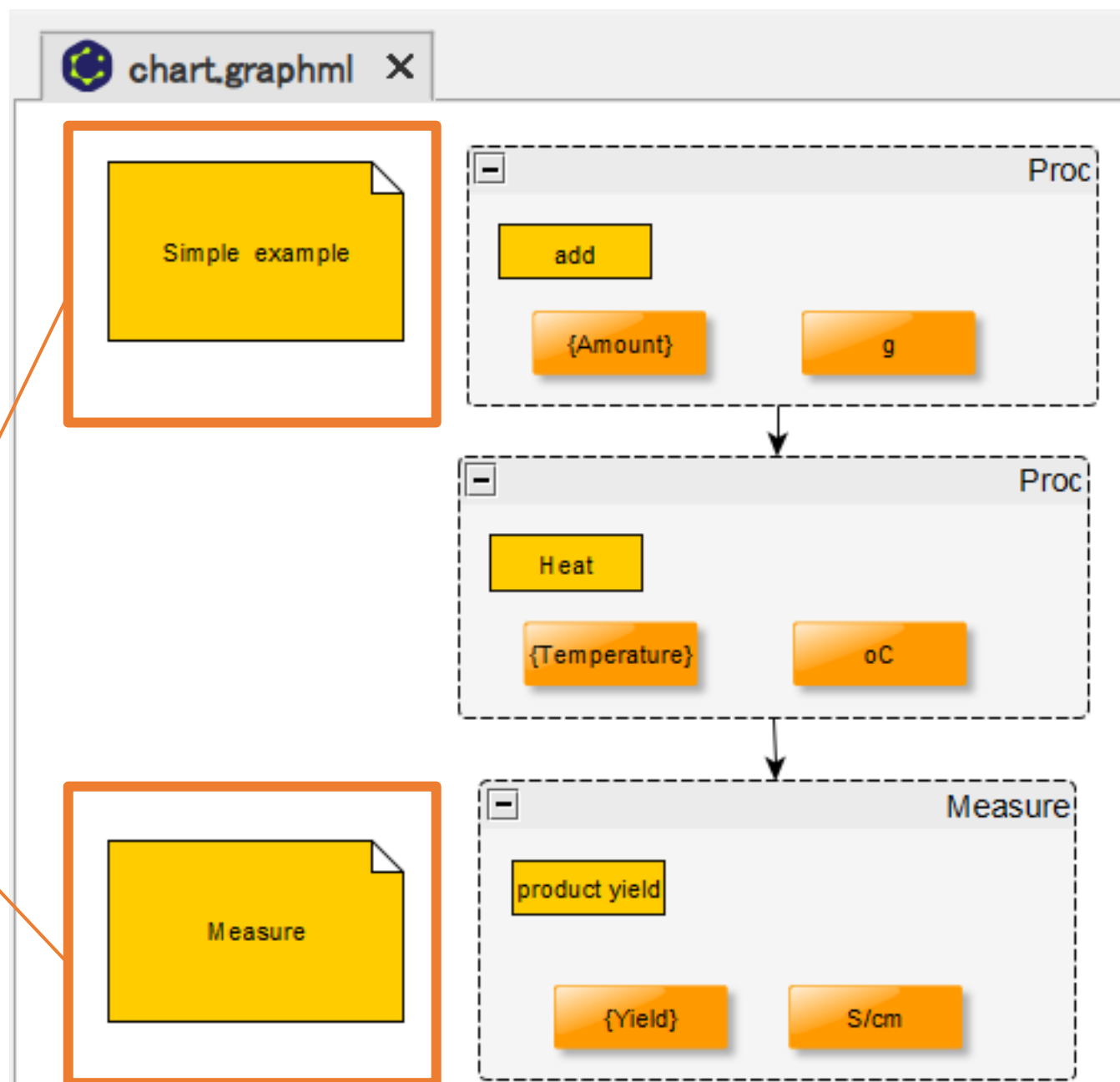
^	名前	更新日時
	chart.graphml	2021/05/05 16:04
	chart.xlsx	2021/05/05 15:57

# chart.graphml

- [yED](#)というソフトで編集可能



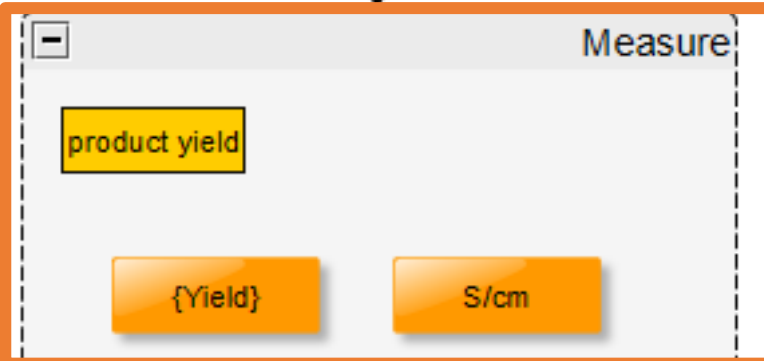
作業者のメモ  
(特にデータ処理  
には影響しない)



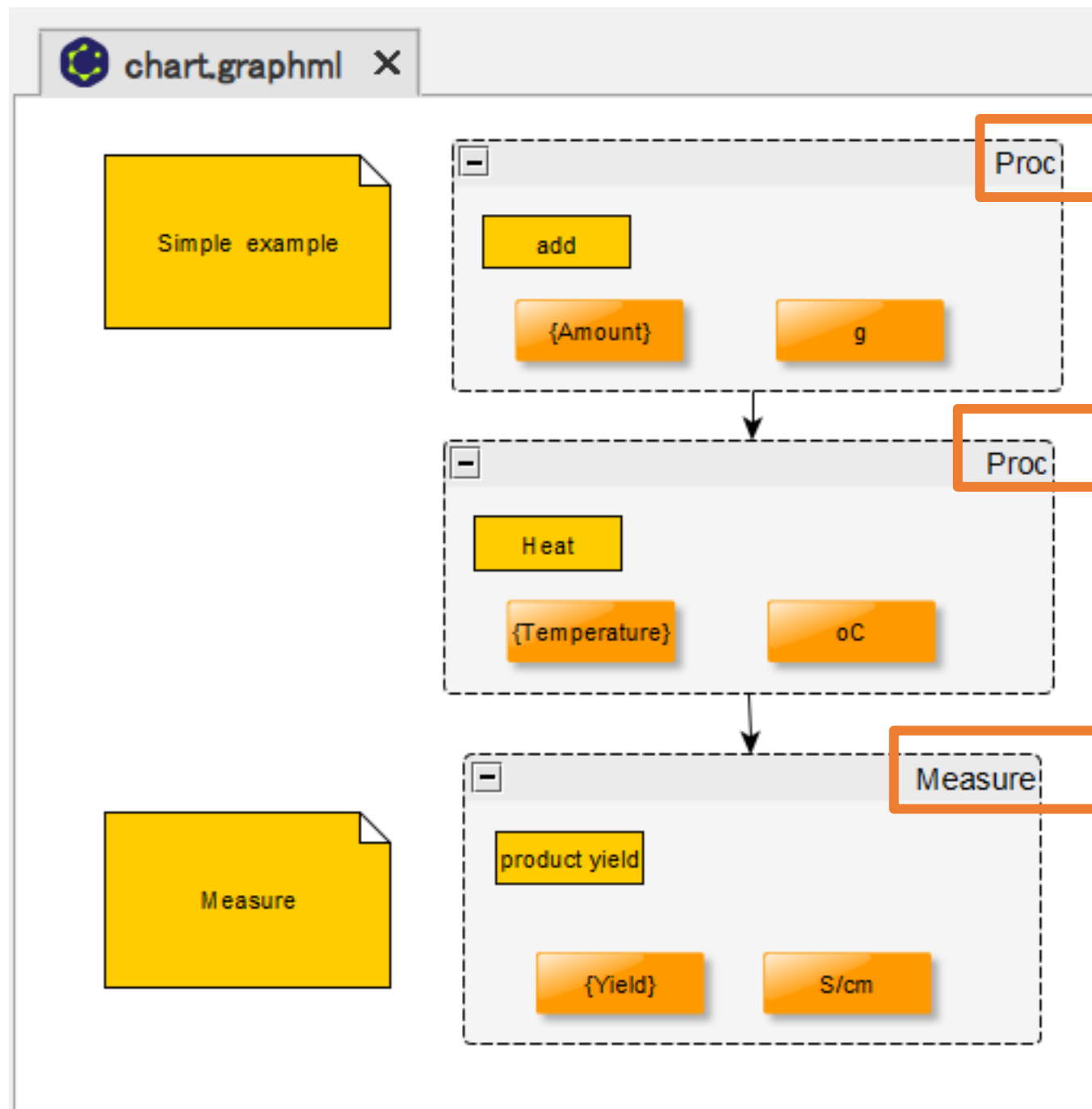
Simple example



Measure

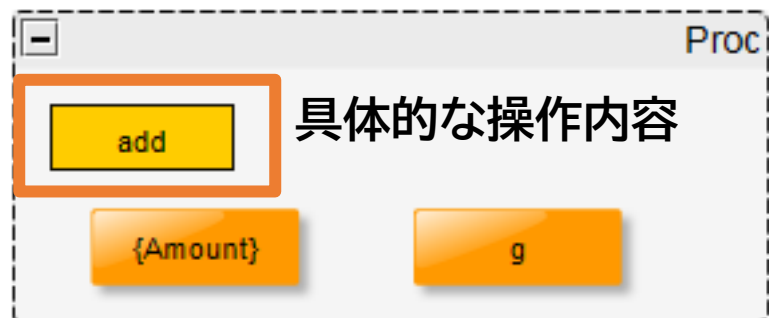


操作



**Proc**  
**Measure**  
**Chemical**  
の3種類  
(chemicalは  
この例では  
出てこない)

Simple example



Measure





Simple example



Measure



Simple example



Measure



# chart.xlsx

- 読み込みたい変数内容は、xlsx内に記録できる
  - Graphml内では、読み込みたい変数を {変数名} とする (鉤括弧で囲む)
  - Excelでは、変数名に対応する列を作っておく
    - (大文字・小文字等を厳密に区別するので注意)

A	B	C	D
Amount	Temperature	Yield	
2	25	10	
4	50	20	
6	70	40	
10	80	20	
8	100	10	

# 一連のデータは、簡単にdataframeへ変換可能

In [2]: ▶

```
1 #load
2 em=ExperimentManager()
3 em.load_experiments("database")
4 em.classify_experiments()
```

In [3]: ▶

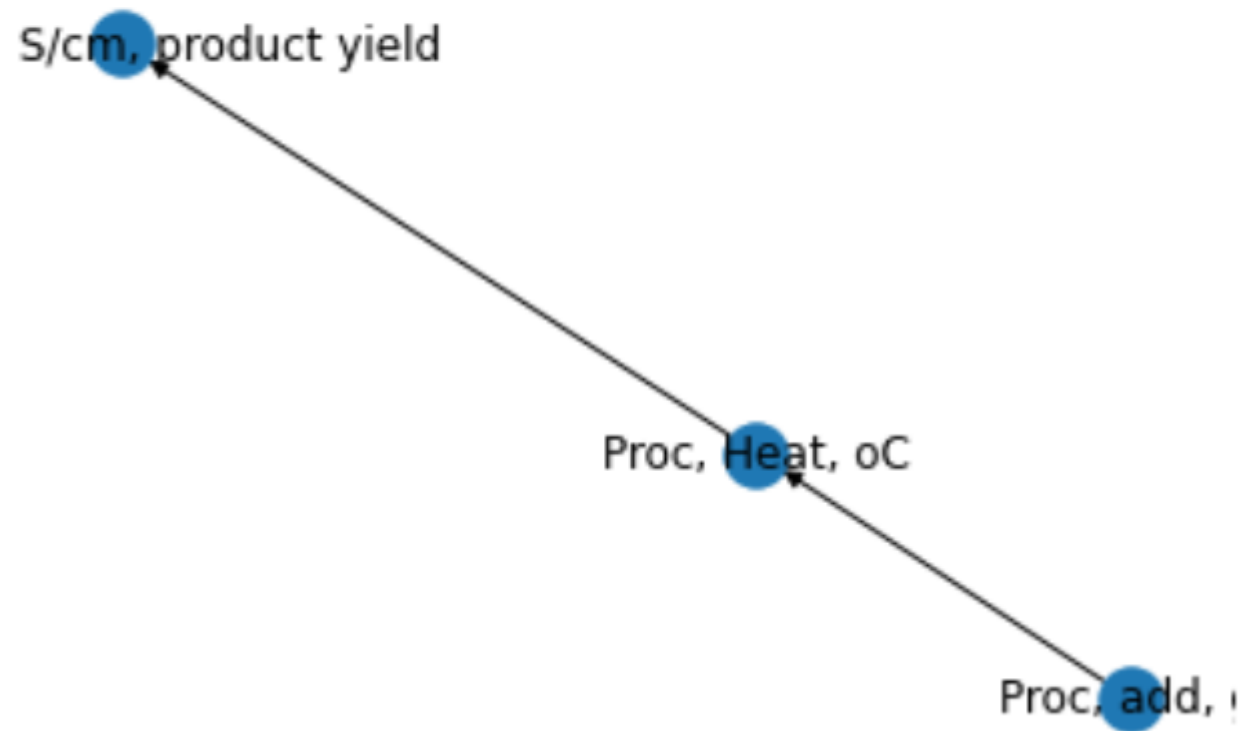
```
1 #show data
2 df=pd.DataFrame.from_dict(em.database).T
3 df
```

Out[3]:

	Proc, add, g	Measure, S/cm, product yield	Proc, Heat, oC	graphID
database\chart_0	2	10	25	0
database\chart_1	4	20	50	0
database\chart_2	6	40	70	0
database\chart_3	10	20	80	0
database\chart_4	8	10	100	0

# Flowchartも表示可能

```
▶ 1 #show flowchart  
2 draw_graph(em. graph_list[0])
```

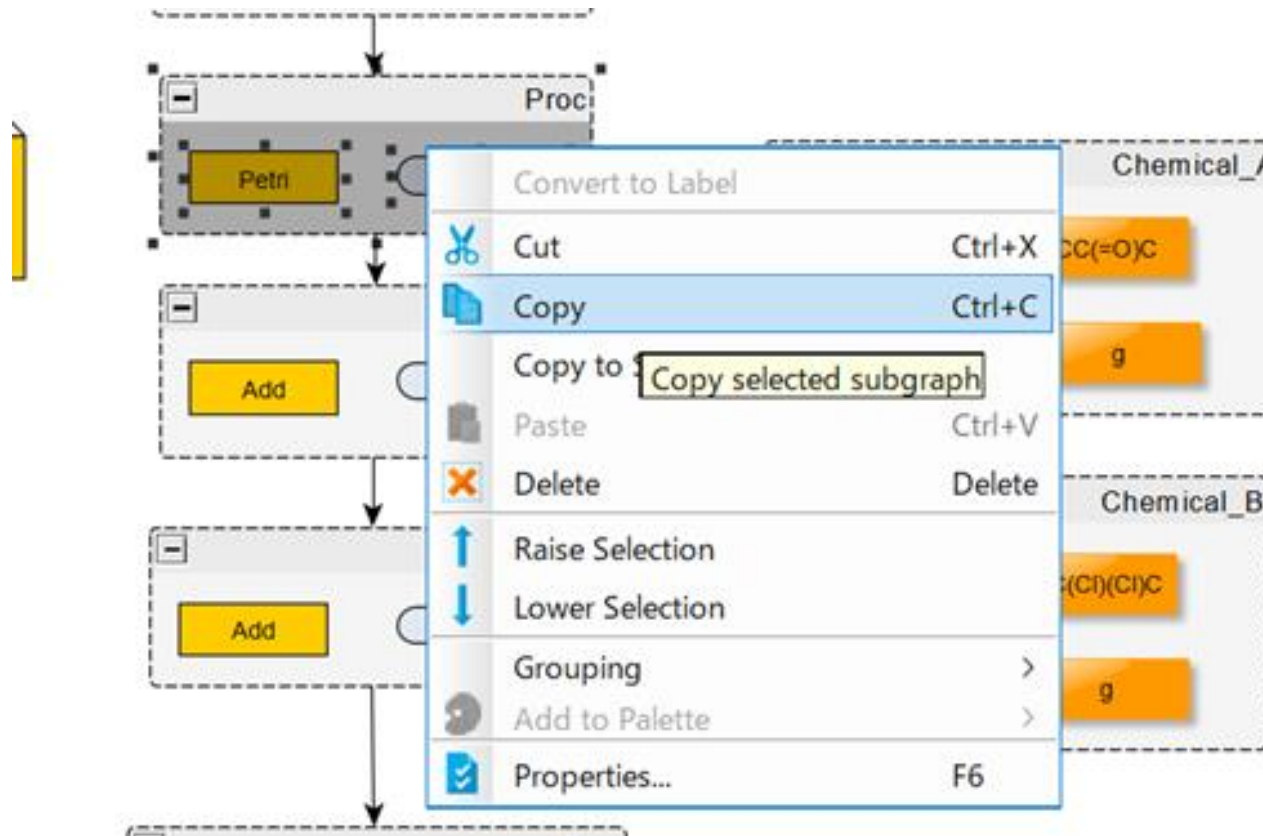


# やってみよう

- 自分で作ったデータベースを読み込んでみよう
- 上記のデータベースを機械学習してみよう

# 注意

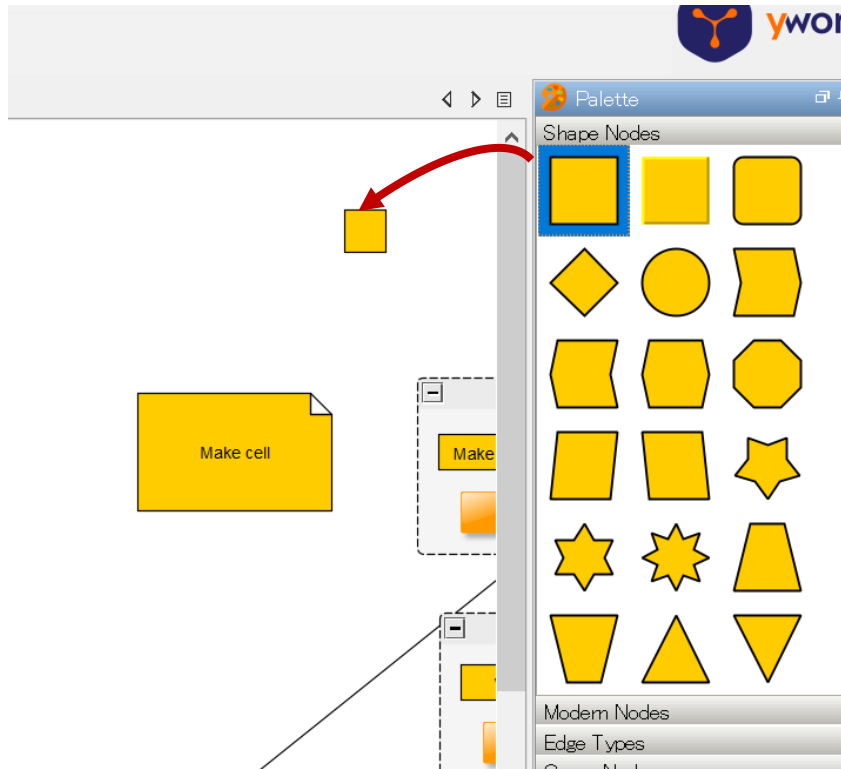
- 「ノード」は既にあるものを「コピペ」して使ってください



Good

# 注意

- 「ノード」は既にあるものを「コピペ」して使ってください



Bad

(使うノードの形や、書式を少しでも変えてしまうと、プログラムで読み込めなくなる可能性大)